



CHAPTER 46

ゲートウェイ テンプレート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、複数のシスコのゲートウェイとそのポートを、Cisco Unified Communications Manager データベースに一括して設定できます。各ゲートウェイとポートを個々に追加する必要はありません。

次のトピックでは、これらのタスクの情報と手順について説明します。

- 「シスコのゲートウェイの追加」 (P.46-1)
- 「ゲートウェイ テンプレートの検索」 (P.46-3)
- 「ゲートウェイ テンプレートの追加または編集」 (P.46-5)
- 「ゲートウェイの設定」 (P.46-15)
- 「ポートの設定」 (P.46-47)
- 「シスコのゲートウェイの削除」 (P.49-1)
- 「シスコのゲートウェイのレポートの生成」 (P.50-1)

シスコのゲートウェイの追加

BAT を使用してシスコの次のゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加できます。

- 「VG200 ゲートウェイの追加」 (P.46-1)
- 「Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイおよびポートの追加」 (P.46-2)
- 「VG224 ゲートウェイの追加」 (P.46-2)
- 「VG202 および VG204 ゲートウェイの追加」 (P.46-3)

VG200 ゲートウェイの追加

VG200 ゲートウェイを追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェア コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属している設定マニュアルを参照してください。

BAT を使用して Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco VG200 ゲートウェイを追加するときに、次のタイプのトランクまたはポートを設定できます。

- アナログ デバイス用の FXS ポート
- ループスタートまたはグラウンドスタートのトランク用の Foreign Exchange Office (FXO)
- 北米における ISDN サービス用の T1 PRI (Primary Rate Interface; 1 次群速度インターフェイス) トランク：現在は Cisco VG200 ゲートウェイにのみ使用できます。

- ヨーロッパにおける ISDN サービス用の E1 PRI トランク:現在は Cisco VG200 ゲートウェイにのみ使用できます。
- デジタル アクセス T1 プロトコル トランク

Cisco VG200 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加する手順は、次のとおりです。

1. Cisco VG200 Gateway テンプレートを作成して、ゲートウェイとポートのセットに共通の値を定義します。詳細については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.46-5) を参照してください。
2. CSV データ ファイルを作成して、追加するゲートウェイとポートごとに個々の値を定義します。詳細については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.48-1) を参照してください。
3. ゲートウェイとポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加します。詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入](#)」(P.48-9) を参照してください。

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイおよびポートの追加

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイおよびポートを Cisco Unified Communications Manager に挿入する手順は、次のとおりです。

1. Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートを作成します。詳細については、「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.46-10) を参照してください。
2. FXS ポートのセットに共通の値を定義するために、Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートを作成します。詳細については、「[FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明](#)」(P.46-22) を参照してください。
3. 追加する FXS ポート用に個々の値を定義するために、CSV データ ファイルを作成します。詳細については、「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.48-4) を参照してください。
4. FXS ポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入](#)」(P.48-9) を参照してください。

BAT を使用してアナログ インターフェイス モジュール用に FXS ポートを追加する前に、次のタスクを実行して Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイをインストールする必要があります。

1. Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイスを使用して、ゲートウェイを設定します。設定方法については、ゲートウェイに付属しているマニュアルを参照してください。
2. Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイを追加するには Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択し、[新規追加 (Add New)] をクリックします。Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway とデバイス プロトコルを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド](#)』を参照してください。

BAT を使用して、アナログ デバイス用に、FXS ポートを Cisco Catalyst 6000 (FXS) アナログ インターフェイス モジュールに追加できます。Gateway Directory Number テンプレートを設定して、これらの FXS ポートおよび Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートに関連付けしてから、これらのポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する必要があります。

VG224 ゲートウェイの追加

VG224 ゲートウェイを追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェア コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属している設定マニュアルを参照してください。

BAT を使用して Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco VG224 ゲートウェイを追加するときに、次のタイプのトランクまたはポートを設定できます。

- アナログ デバイス用の FXS ポート

Cisco VG224 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加する手順は、次のとおりです。

1. Cisco VG224 Gateway テンプレートを作成して、ゲートウェイとポートのセットに共通の値を定義します。詳細については、「[Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.46-11) を参照してください。
2. CSV データ ファイルを作成して、追加するゲートウェイとポートごとに個々の値を定義します。詳細については、「[Cisco VG224 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.48-5) を参照してください。
3. ゲートウェイとポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加します。詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入](#)」(P.48-9) を参照してください。

VG202 および VG204 ゲートウェイの追加

VG202 または VG204 ゲートウェイを追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェア コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属している設定マニュアルを参照してください。

Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイおよびポートを Cisco Unified Communications Manager に挿入する手順は、次のとおりです。

1. Cisco VG224 Gateway テンプレートを作成して、ゲートウェイとポートのセットに共通の値を定義します。詳細については、「[Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.46-13) を参照してください。
2. CSV データ ファイルを作成して、追加するゲートウェイとポートごとに個々の値を定義します。詳細については、「[Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.48-7) を参照してください。
3. ゲートウェイとポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加します。詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入](#)」(P.48-9) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.46-52) を参照してください。

ゲートウェイ テンプレートの検索

複数のゲートウェイ テンプレートに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて特定のテンプレートを見つけることができます。テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションの作業中、検索/一覧表示の検索プリファレンスはクライアント マシンのクッキーに格納されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを再度開いた場合、検索を変更するまで Cisco Unified Communications Manager 検索プリファレンスが維持されます。

手順

ステップ 1 [一括管理(Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。

[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象: ゲートウェイ、検索条件 (Find Gateways where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [DN/ ルートパターン (DN/Route Pattern)]
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ルートグループ名 (Route Group Name)]
- [デバイスタイプ (Device Type)]

ステップ 3 2 番目の [検索対象: ゲートウェイ、検索条件 (Find Gateways where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されたすべてのゲートウェイを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 3 番目のドロップダウン リスト ボックスから、[表示 (Show)] を選択してゲートウェイに関連付けられたエンドポイントを表示し、[検索 (Find)] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

ステップ 6 レコードのリストから、検索条件に一致するデバイス名をクリックします。

[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.46-52) を参照してください。

ゲートウェイ テンプレートの追加または編集

新しい VG200、G202、VG 204、VG224、または Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理(Bulk Administration)]>[ゲートウェイ (Gateways)]>[ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

- 既存のゲートウェイ テンプレートを編集する場合は、「ゲートウェイ テンプレートの検索」(P.46-3) を参照し、編集するゲートウェイを選択します。
「VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明」(P.46-15)、「VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明」(P.46-16)、「VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明」(P.46-17)、および「Cisco Catalyst 24 Port FXS Gateway テンプレートのフィールドの説明」(P.46-18) を参照してください。
- 新しいゲートウェイを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。[新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの手順を完了します。

- VG200 テンプレートを作成する場合は、「Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成」(P.46-5) を参照してください。
- Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートを作成する場合は、「Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートの作成」(P.46-10) を参照してください。
- VG224 テンプレートを作成する場合は、「Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成」(P.46-11) を参照してください。
- VG202 または VG204 テンプレートを作成する場合は、「Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成」(P.46-13) を参照してください。

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成

Cisco VG200 テンプレートを作成してから、ネットワーク モジュール用のエンドポイント識別子を追加します。

次のエンドポイント識別子の設定には BAT テンプレートを使用する必要があります。

- FXS ポート
- FXO トランク
- T1 PRI トランク
- E1 PRI トランク
- T1 CAS トランク

VG200 Gateway テンプレートを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)]>[ゲートウェイ (Gateways)]>[ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
- [ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加(Add New)] をクリックします。[新規ゲートウェイテンプレートを追加(Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco VG200 を選択し、[次へ(Next)] をクリックします。[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** すべてのフィールドに値を入力します。詳細については、「[VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明](#)」(P.46-15) を参照してください。
- ステップ 5** [保存(Save)] をクリックします。挿入が完了すると、新しいフィールドがペインに表示されます。
- ステップ 6** [Subunit] フィールドで、次の各サブユニット フィールドに適切なタイプを選択します。
- [VIC-2FXS] : FXS 音声インターフェイス カード
 - [VIC-2FXO] : FXO 音声インターフェイス カード
 - [VWIC-1MFT-T1] : T1 CAS または T1 PRI 用のエンドポイントを 1 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
 - [VWIC-2MFT-T1] : T1 CAS または T1 PRI 用のエンドポイントを 2 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
 - [VWIC-1MFT-E1] : E1 PRI 用のエンドポイントを 1 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
 - [VWIC-2MFT-E1] : E1 PRI 用のエンドポイントを 2 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
- ステップ 7** [保存(Save)] をクリックします。更新が完了したことが [ステータス (Status)] によって示されると、[Subunit 0] ドロップダウン リスト ボックスの右側にエンドポイント識別子がリンクとして表示されません。
- ステップ 8** エンドポイント識別子 (たとえば、1/0/0) をクリックし、デバイス プロトコル情報を設定し、インストールした VIC タイプのポートを追加します。
- 詳細な手順については、次の項を参照してください。
- 「[VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加](#)」(P.46-7)
 - 「[VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加](#)」(P.46-8)
 - 「[VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタル アクセス T1 \(T1-CAS\) ポートの追加](#)」(P.46-9)
 - 「[VG200 ゲートウェイ テンプレートへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの追加](#)」(P.46-9)
- ステップ 9** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット(Reset)] をクリックします。
- ステップ 10** 必要に応じて、エンドポイント情報とポートの設定を続行します。
-

VG200 ゲートウェイ テンプレートへのポートの追加

VG200 ゲートウェイに関して設定できるデバイス プロトコルおよびポート タイプは、インストールされた音声インターフェイスによって異なります。この項では、次の手順について説明します。

- 「VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加」 (P.46-7)
- 「VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加」 (P.46-8)
- 「VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートの追加」 (P.46-9)
- 「VG200 ゲートウェイ テンプレートへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの追加」 (P.46-9)

VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加

FXS (Foreign Exchange Station) ポートを使用すると、POTS デバイスに接続できます。VG200 ゲートウェイ テンプレートに FXS ポートを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

ポートを設定する前に、VG200 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、「Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成」 (P.46-5) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、「ゲートウェイ テンプレートの検索」 (P.46-3) を参照します。
- ステップ 2** [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント識別子をクリックします。
- ウィンドウが更新され、[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウにエンドポイントのアイコンが表示されます。
- ステップ 3** 適切な [ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] と [ポート情報 (Port Information)] の設定値を入力します。該当するフィールドの詳細については、次の項を参照してください。
- 「FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明」 (P.46-22)
 - 「POTS ポートの設定」 (P.46-48)
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-
-  **(注)** POTS ポートを挿入すると、ウィンドウが更新され、ウィンドウの下部に POTS ポート情報が表示されます。左側のパネルの [電話番号情報 (Directory Number Information)] 領域に、[新規 DN を追加 (Add a new DN)] リンクが表示されます。
-
- ステップ 5** [新規 DN を追加 (Add a new DN)] をクリックして POTS ポートに電話番号を追加するか、「ステップ 7」に進んで別のポート タイプを設定します。
-
-  **(注)** DN の追加と設定の詳細については、「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」 (P.3-5) を参照してください。
-

- ステップ 6** ポートを追加する VG200 ゲートウェイの [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] メイン ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 7** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 8** その他の FXS ポートを追加する場合は、「[ステップ 2](#)」～「[ステップ 6](#)」を繰り返します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.46-52) を参照してください。

VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加

FXO (Foreign Exchange Office) ポートを使用すると、セントラル オフィスまたは PBX に接続できます。VG200 ゲートウェイ テンプレートにループスタートまたはグラウンドスタート用の FXO ポートを追加し、設定する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager は、すべてのループスタート トランクには確実な接続解除監視がないと想定しています。確実な接続解除監視を伴うトランクをグラウンドスタートとして設定し、Cisco Unified Communications Manager サーバがフェールオーバー中にアクティブなコールを保持できるようにします。

始める前に

ポートを設定する前に、VG200 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.46-5) を参照してください。

手順

- ステップ 1** FXO ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、「[ゲートウェイ テンプレートの検索](#)」(P.46-3) を参照します。
- ステップ 2** [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXO ポートのエンドポイント識別子をクリックします。
- ステップ 3** [ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Ground Start] または [Loop Start] のいずれかを選択します。



(注) VIC-2FXO ポートの両方のエンドポイント識別子として同じポート タイプを選択する必要があります。異なるポート タイプを選択すると、メッセージが表示されます。

- ステップ 4** 「[FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明](#)」(P.46-22) に示す適切な [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] と [ポート情報 (Port Information)] の設定値を入力します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** ポートを追加するゲートウェイ用の VG200 ゲートウェイ設定のメイン ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 7** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。

ステップ 8 他の FXO ポートを追加するには、「[ステップ 2](#)」～「[ステップ 5](#)」を繰り返します。

追加情報

「[関連項目](#)」([P.46-52](#)) を参照してください。

VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートの追加

VG200 ゲートウェイにデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートを追加する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** デジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、「[ゲートウェイ テンプレートの検索](#)」([P.46-3](#)) を参照します。
- ステップ 2** [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定するデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートのエンドポイント識別子をクリックします。
表示される [デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、[デジタル アクセス T1] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 3** 適切なゲートウェイ設定を入力します。詳細については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上のデジタル アクセス T1 トランクのフィールドの説明](#)」([P.46-29](#)) を参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 6** 選択したポート タイプの適切な設定値については、「[ポートの設定](#)」([P.46-47](#)) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」([P.46-52](#)) を参照してください。

VG200 ゲートウェイ テンプレートへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの追加

- ステップ 1** T1 PRI ポートまたは E1 PRI ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、「[ゲートウェイ テンプレートの検索](#)」([P.46-3](#)) を参照します。
- ステップ 2** [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する T1 PRI または E1 PRI ポートのエンドポイント識別子をクリックします。
- ステップ 3** T1 PRI または E1 PRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。詳細なフィールドの説明は、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明](#)」([P.46-33](#)) を参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」([P.46-52](#)) を参照してください。

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートの作成

Cisco Catalyst 6000 FXS ゲートウェイ テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。注釈がない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
- [ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Catalyst 6000 24 port FXS Gateway] を選択します。[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [テンプレート名 (Template Name)] フィールドに、このテンプレートの固有の名前を入力します。
- ステップ 5** フィールドに設定値を入力します。詳細については、「Cisco Catalyst 24 Port FXS Gateway テンプレートのフィールドの説明」(P.46-18) を参照してください。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [新規ポートを追加 (Add a New Port)] をクリックします。
- 別のウィンドウに、ポート設定のダイアログが開きます。
- ステップ 8** ドロップダウン リスト ボックスから、設定するゲートウェイ モデルに基づくポート タイプとして [POTS] を選択します。
- ステップ 9** 「POTS ポートの設定」(P.46-48) の説明に従って、適切なポート設定を入力します。
- ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。
- POTS ポートを挿入すると、ウィンドウが更新され、ウィンドウの左側のリストに POTS ポート情報が表示されます。新しいポートの右に、[DN の追加 (Add DN)] リンクが表示されます。
- ステップ 11** FXS ポートに電話番号を追加するには、[DN の追加 (Add DN)] をクリックします。
- 電話番号の追加と設定については、「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」(P.3-5) を参照してください。
- ステップ 12** [保存 (Save)] をクリックします。更新が完了したことが [ステータス (Status)] に示されると、[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウにテンプレートが表示されます。[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウに戻るには、ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから、[検索/リストに戻る (Back To Find/List)] を選択します。
-

Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成

Cisco VG224 テンプレートを作成してから、ネットワーク モジュール用のエンドポイント識別子を追加します。

次のエンドポイント識別子の設定には BAT テンプレートを使用する必要があります。

- FXS ポート

始める前に

VG224 Gateway テンプレートを追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)]>[ゲートウェイ (Gateways)]>[ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco VG224 を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。次の [新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、MGCP または SCCP を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** すべてのフィールドに値を入力します。詳細については、「[VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(P.46-16\)](#)」を参照してください。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。挿入が完了すると、新しいフィールドがペインに表示されます。
- ステップ 7** [Subunit 0] フィールドで、サブユニット フィールドに適切なタイプをドロップダウン リスト ボックスから選択します。
 - [VIC-2FXS] : FXS 音声インターフェイス カード
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。更新が完了したことが [ステータス (Status)] によって示されると、[Subunit 0] ドロップダウン リスト ボックスの右側にエンドポイント識別子がリンクとして表示されます。
- ステップ 9** エンドポイント識別子 (たとえば、1/0/0) をクリックし、デバイス プロトコル情報を設定し、インストールした VIC タイプのポートを追加します。
詳細な手順については、次の項を参照してください。
 - 「[VG224 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加 \(P.46-12\)](#)」
- ステップ 10** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 11** 必要に応じて、エンドポイント情報とポートの設定を続行します。

VG224 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加

FXS (Foreign Exchange Station) ポートを使用すると、POTS デバイ스에接続できます。VG224 ゲートウェイ テンプレートに FXS ポートを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

ポートを設定する前に、VG224 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、「Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成」(P.46-11) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、「[ゲートウェイ テンプレートの検索](#)」(P.46-3) を参照します。
- ステップ 2** [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント識別子をクリックします。
- ウィンドウが更新され、[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウにエンドポイントのアイコンが表示されます。
- ステップ 3** 適切な [ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] と [ポート情報 (Port Information)] の設定値を入力します。該当するフィールドの詳細については、次の項を参照してください。
- 「[FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明](#)」(P.46-22)
 - 「[POTS ポートの設定](#)」(P.46-48)
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-
-  **(注)** POTS ポートを挿入すると、ウィンドウが更新され、ウィンドウの下部に POTS ポート情報が表示されます。左側のパネルの [電話番号情報 (Directory Number Information)] 領域に、[新規 DN を追加 (Add a new DN)] リンクが表示されます。
-
- ステップ 5** [新規 DN を追加 (Add a new DN)] をクリックして POTS ポートに電話番号を追加するか、「[ステップ 7](#)」に進んで別のポート タイプを設定します。
-
-  **(注)** DN の追加と設定の詳細については、「[BAT テンプレートにおける回線の追加または更新](#)」(P.3-5) を参照してください。
-
- ステップ 6** ポートを追加する VG224 ゲートウェイの [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] メイン ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 7** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 8** その他の FXS ポートを追加する場合は、「[ステップ 2](#)」～「[ステップ 6](#)」を繰り返します。
-

Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成

Cisco VG202 または VG204 テンプレートを作成してから、ネットワーク モジュール用のエンドポイント識別子を追加します。

次のエンドポイント識別子の設定には BAT テンプレートを使用する必要があります。

- FXS ポート

VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)]>[ゲートウェイ (Gateways)]>[ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリスト ボックスから、Cisco VG202 または VG204 を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。次の [新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 4** [プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、MGCP または SCCP を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 5** すべてのフィールドに値を入力します。詳細については、「[VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明](#)」(P.46-17) を参照してください。
 - ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。挿入が完了すると、新しい [Subunit 0] フィールドがペインに表示されます。
 - ステップ 7** [Subunit 0] フィールドで、サブユニット フィールドに適切なタイプをドロップダウン リスト ボックスから選択します。
 - ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。更新が完了したことが [ステータス (Status)] によって示されると、[Subunit 0] ドロップダウン リスト ボックスの右側にエンドポイント識別子がリンクとして表示されます。
 - ステップ 9** エンドポイント識別子 (たとえば、0/0) をクリックし、デバイス プロトコル情報を設定し、インストールした VIC タイプのポートを追加します。
詳細な手順については、次の項を参照してください。
 - 「[VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加](#)」(P.46-14)
 - ステップ 10** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
 - ステップ 11** 必要に応じて、エンドポイント情報とポートの設定を続行します。
-

VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加

FXS (Foreign Exchange Station) ポートを使用すると、POTS デバイスに接続できます。VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートに FXS ポートを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

ポートを設定する前に、VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、「Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成」(P.46-13) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、「[ゲートウェイ テンプレートの検索](#)」(P.46-3) を参照します。
- ステップ 2** [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント識別子をクリックします。
- ウィンドウが更新され、[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウにエンドポイントのアイコンが表示されます。
- ステップ 3** 適切な [ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] と [ポート情報 (Port Information)] の設定値を入力します。該当するフィールドの詳細については、次の項を参照してください。
- 「[FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明](#)」(P.46-22)
 - 「[POTS ポートの設定](#)」(P.46-48)
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-
-  **(注)** POTS ポートを挿入すると、ウィンドウが更新され、ウィンドウの下部に POTS ポート情報が表示されます。左側のペインの [電話番号情報 (Directory Number Information)] 領域に、[新規 DN を追加 (Add a new DN)] リンクが表示されます。
-
- ステップ 5** [新規 DN を追加 (Add a new DN)] をクリックして POTS ポートに電話番号を追加するか、「[ステップ 7](#)」に進んで別のポート タイプを設定します。
-
-  **(注)** DN の追加と設定の詳細については、「[BAT テンプレートにおける回線の追加または更新](#)」(P.3-5) を参照してください。
-
- ステップ 6** ポートを追加する VG202 または VG204 ゲートウェイの [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] メイン ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします (MGCP ゲートウェイを設定している場合)。
- ステップ 7** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 8** その他の FXS ポートを追加する場合は、「[ステップ 2](#)」～「[ステップ 6](#)」を繰り返します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.46-52) を参照してください。

ゲートウェイの設定

すべてのゲートウェイ設定フィールドの詳細な説明を示す表は、次の項を参照してください。

- 「VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明」 (P.46-15)
- 「VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明」 (P.46-16)
- 「VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明」 (P.46-17)
- 「Cisco Catalyst 24 Port FXS Gateway テンプレートのフィールドの説明」 (P.46-18)
- 「FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明」 (P.46-22)
- 「Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上のデジタル アクセス T1 トランクのフィールドの説明」 (P.46-29)
- 「Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明」 (P.46-33)

ポート設定の詳細については、「ポートの設定」 (P.46-47) を参照してください。

VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 46-1 に、VG200 ゲートウェイ テンプレート設定の詳細な説明があります。関連する手順については、「関連項目」 (P.46-52) を参照してください。

表 46-1 VG200 ゲートウェイの設定

フィールド	説明
[テンプレート名(Template name)]	Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
[説明(Description)]	デバイスの目的を明らかにする説明を入力します。
[Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager 冗長グループには、優先順位が指定された最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager のリストが含まれます。リスト内の最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager の役割を果たします。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用できない場合または失敗する場合は、ゲートウェイがリスト内の次の Cisco Unified Communications Manager への接続を試みます。

[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント(Configured Slots, VICs and Endpoints)]

(注) 一部の VIC の開始ポート番号を指定する必要があります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 で開始される 2 つのポート (0 と 1) がある場合は、Subunit 1 の VIC は 1 より大きなポート番号 (2 と 3 または 4 と 5) で開始する必要があります。

(注) VG200 ゲートウェイにはスロットが 1 つだけあります。

表 46-1 VG200 ゲートウェイの設定 (続き)

フィールド	説明
[Module in Slot 1]	<p>VG200 ゲートウェイで使用可能なスロットの場合は、次のモジュール タイプから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NM-1V] : Network Module-1Voice には、Sub-Unit 0 に、FXS または FXO 用の 1 枚の音声インターフェイス カード (VIC) がある。 • [NM-2V] : Network Module-2Voice には、FXS または FXO 用に、Sub-Unit 0 に 1 枚、Sub-Unit 1 に 1 枚、合計 2 枚の VIC がある。 • [NM-HDV] : Network Module-High Density Voice には、T1 CAS、T1 PRI、または E1 PRI 用に、Sub-Unit 0 に 1 枚の VIC がある。 • [None] : ネットワーク モジュールが取り付けられていない。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
<p>ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド</p>	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 46-2 に、VG224 ゲートウェイ テンプレート設定の詳細な説明があります。関連する手順については、「関連項目」(P.46-52) を参照してください。

表 46-2 VG224 ゲートウェイの設定

フィールド	説明
[テンプレート名 (Template name)]	Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明らかにする説明を入力します。

表 46-2 VG224 ゲートウェイの設定 (続き)

フィールド	説明
[Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager 冗長グループには、優先順位が指定された最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager のリストが含まれます。リスト内の最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager の役割を果たします。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用できない場合または失敗する場合は、ゲートウェイがリスト内の次の Cisco Unified Communications Manager への接続を試みます。
[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
[Module in Slot 2]	VG224 ゲートウェイで使用可能なスロットに対し、ドロップダウン リスト ボックスから [ANALOG] を選択します。
[Subunit 0]	VG224 ゲートウェイで使用可能なサブユニット 0 に対し、ドロップダウン リスト ボックスから [24FXS] を選択します。 (注) VG224 ゲートウェイの場合は、[Module in Slot 2] と [Subunit 0] だけが使用可能です。

VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 46-3 に、VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレート設定の詳細な説明があります。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.46-52) を参照してください。

表 46-3 VG202 および VG204 ゲートウェイの設定

フィールド	説明
[テンプレート名 (Template name)]	Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明らかにする説明を入力します。
[Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager 冗長グループには、優先順位が指定された最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager のリストが含まれます。リスト内の最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager の役割を果たします。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用できない場合または失敗する場合は、ゲートウェイがリスト内の次の Cisco Unified Communications Manager への接続を試みます。

表 46-3 VG202 および VG204 ゲートウェイの設定 (続き)

フィールド	説明
[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
[Module in Slot 0]	VG202 または VG204 ゲートウェイで使用可能なスロットに対し、ドロップダウン リスト ボックスから [ANALOG] を選択します。
[Subunit 0]	VG202 または VG204 ゲートウェイで使用可能なサブユニット 0 に対し、ドロップダウン リスト ボックスから [2FXS] を選択します。 (注) VG202 および VG204 ゲートウェイの場合は、[Module in Slot 0] と [Subunit 0] だけが使用可能です。

Cisco Catalyst 24 Port FXS Gateway テンプレートのフィールドの説明

「表 46-4」に、Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway テンプレートの設定を示します。関連する手順については、「関連項目」(P.46-52) を参照してください。

表 46-4 Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway の設定

フィールド	説明
[説明 (Description)]	デバイスの目的を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、このデバイスのプロパティの集合 (たとえば、Cisco Unified Communications Manager グループ、日付/時刻グループ、地域、およびデバイスの自動登録用のコーリング サーチ スペース) を指定します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	このゲートウェイに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで共通のデバイス設定を行います。 共通デバイス設定の設定値を参照するには、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	このリストは、優先順位が付けられたメディア リソース グループのグルーピングを指定します。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] で定義する優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (たとえば保留音サーバ) を選択します。
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	このグループの IP ゲートウェイのネットワーク保留オーディオソースを選択します。 ネットワーク保留オーディオ ソースは、システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときまたはコール パークに置いたとき) に再生される音楽のオーディオソースを特定します。

表 46-4 Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway の設定 (続き)

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチスペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、パーティションの集合を指定するものです。パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p> <p>このドロップダウン リスト ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースの数は、Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して設定できます。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目数を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、さらに Unified CMAAdmin Parameters を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>このデバイスの適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを [なし (None)] に設定すると、ロケーション機能がこのデバイスの消費する帯域幅を管理しないことを示します。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。グループを [なし (None)] に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。</p>
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ゲートウェイに関連付けられたロケールを選択します。ネットワーク ロケールは、特定のロケーションのハードウェアをサポートする詳細な情報のセットを識別します。ネットワーク ロケールには、デバイスが特定の地域で使用するトーンと断続周期の定義が含まれます。</p> <p>(注) すでにインストールされ、関連のデバイスでサポートされているネットワーク ロケールのみを選択します。リストには、この設定に使用できるすべてのネットワーク ロケールが含まれますが、すべてがインストールされているとは限りません。ファームウェアでサポートしないネットワーク ロケールにデバイスが関連付けられている場合、デバイスは起動しません。</p>

表 46-4 Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway の設定 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを追加するかどうかを有効または無効にします。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト(Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ(Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン(On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>複数のリソースがエンドポイント (トランスコーダ、RSVP エージェントなど) に対して必要な場合、Cisco Unified Communications Manager では、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い場所に TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。</p> <p>コールの動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』で TRP の挿入に関する要件の説明を参照してください。</p>
[ポート選択順序 (Port Selection Order)]	<p>ポートが選択される順序を選択します。どちらのポート順序を使用すべきかわからない場合は、[Top Down] を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Top Down] : ポート 1 からポート 8 まで、降順にポートを選択します。 • [Bottom Up] : ポート 8 からポート 1 まで、昇順にポートを選択します。
[ロード情報 (Load Information)]	<p>ゲートウェイ用の該当するファームウェア ロード情報を入力します。</p> <p>ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。</p>

表 46-4 Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway の設定 (続き)

フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信デバイスでは、このチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケール設定に一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しないと、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信デバイスは、送信デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールに一致する場合は、電話機に文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端が同じ言語グループに属さないユーザ ロケールを設定している場合は、電話機に判読不可能な文字が表示されることがあります。</p>
[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>発呼側トランスフォーメーション CSS が存在するパーティションにパターンを割り当てる場合、デバイスは発呼側トランスフォーメーション パターンの属性を使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>デバイスに割り当てられているデバイス プールで設定された発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、デバイスは、デバイスの設定ウィンドウで設定された発呼側トランスフォーメーション CSS を使用します。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインを選択します。この値を [なし (None)] のままにすると、このデバイスはデバイスのデバイス プールに設定された値から MLPP ドメインを継承します。デバイス プールに MLPP ドメインが設定されていない場合に、このデバイスは MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値からその MLPP ドメインを継承します。</p>
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>このデバイス タイプには、この設定値がありません。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定値には、このデバイス タイプがありません。</p>

表 46-4 Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway の設定 (続き)

フィールド	説明
[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]	
[位置情報 (Geo Location)]	ドロップダウン リスト ボックスから、位置情報を選択します。 未指定の位置情報を選択できます。これは、このデバイスを位置情報に関連付けないことを示します。 [システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定した位置情報を選択することもできます。
[位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]	ドロップダウン リスト ボックスから、位置情報フィルタを選択します。 この値を [なし (None)] のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。 [システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定した位置情報フィルタを選択することもできます。

FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明

表 46-5 に、FXS/FXO ポート設定の詳細な説明があります。関連する手順については、「[関連項目 \(P.46-52\)](#)」を参照してください。

VG200 ゲートウェイでは、すべてのスイッチ エミュレーション タイプがネットワーク側をサポートするとは限りません。ゲートウェイ スイッチ タイプを設定する方法によって、ネットワーク側を設定できるかどうかが決まります。

表 46-5 FXS/FXO ポートの設定

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[エンドポイント名 (End-Point Name)]	VG200 ゲートウェイの場合、ここは表示専用フィールドです。Cisco Unified Communications Manager が生成する、VG200 アナログ インターフェイスを一意に識別する文字列が表示されます。
[説明 (Description)]	Cisco Unified Communications Manager は、アナログ MGCP の説明を一意に識別する文字列を生成します。 次の例を参考にしてください。 AALN/S0/SU1/1@domain.com このフィールドは編集できます。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (¥)、または山カッコ (<>) は使用できません。

表 46-5 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

フィールド	説明
[デバイスプール(Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、このデバイスのプロパティの集合 (たとえば、 Communications Manager グループ、日付/時刻グループ、地域、およびデバイスの自動登録用のコーリング サーチ スペース) を指定します。
[メディアリソースグループリスト(Media Resource Group List)]	このリストは、優先順位が付けられたメディア リソース グループのグルーピングを指定します。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト(Media Resource Group List)] で定義する優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (たとえば保留音サーバ) を選択します。
[パケットキャプチャモード(Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイの場合のみ)	このフィールドは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに対する暗号化されたシグナリング情報をトラブルシューティングする必要があるときにのみ設定します。パケットキャプチャを設定すると、コール処理が中断される場合があります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[パケットキャプチャ時間(Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイの場合のみ)	このフィールドは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに対する暗号化されたシグナリング情報をトラブルシューティングする必要があるときにのみ設定します。パケットキャプチャを設定すると、コール処理が中断される場合があります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[コーリングサーチスペース(Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合で構成されます。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[AAR コーリングサーチスペース(AAR Calling Search Space)]	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。

表 46-5 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションを使用して、集中コール処理システム内にコールアドミッション制御 (CAC) を実装します。CAC を使用すると、ロケーション間のリンク経由での音声およびビデオ コールに使用できる帯域幅の量を制限することで、音声の品質およびビデオの可用性を規制できます。ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスの適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションを <code>Hub_None</code> に設定すると、ロケーション機能がこのデバイスの消費する帯域幅を管理しないことを示します。[Phantom] というロケーション設定は、<code>H.323</code> または <code>SIP</code> プロトコルを使用するクラスタ間トランク経由で CAC を正常に行うことができるロケーションを指定します。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、<code>[システム (System)] > [ロケーション (Location)]</code> メニュー オプションを使用します。</p> <p>ロケーションの詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド</i>] を参照してください。クラスタ間トランク経由のロケーションベースの CAC の説明については、『<i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i>] を参照してください。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。グループを <code>[なし (None)]</code> に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。</p>
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ゲートウェイに関連付けられたロケールを選択します。ネットワーク ロケールは、特定のロケーションのハードウェアをサポートする詳細な情報のセットを識別します。ネットワーク ロケールには、デバイスが特定の地域で使用するトーンと断続周期の定義が含まれます。</p> <p>(注) すでにインストールされ、関連のデバイスでサポートするネットワーク ロケールのみを選択します。リストには、この設定に使用できるすべてのネットワーク ロケールが含まれますが、すべてがインストールされているとは限りません。ファームウェアでサポートしないネットワーク ロケールにデバイスが関連付けられている場合、デバイスは起動しません。</p>

表 46-5 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを追加するかどうかを有効または無効にします。次の値のいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値を使用する。 • [オフ (Off)] : この値を選択して、デバイスでの TRP の使用を無効にする。この設定値は、デバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値を上書きします。 • [オン (On)] : この値を選択して、デバイスでの TRP の使用を有効にする。この設定値は、デバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値を上書きします。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスでは、信頼できるリレー ポイントとして表示されている MTP またはトランスコーダを指定します。</p> <p>複数のリソースがエンドポイント (トランスコーダ、RSVP エージェントなど) に対して必要な場合、Cisco Unified Communications Manager では、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い場所に TRP を配置します。</p> <p>TRP と MTP の両方がエンドポイントに必要な場合、TRP は必要な MTP として使用されます。コールの動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』を参照してください。</p> <p>TRP と RSVP エージェントの両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は最初に TRP としても使用できる RSVP エージェントを検索します。</p> <p>TRP とトランスコーダの両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は最初に TRP としても指定できるトランスコーダを検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレーポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』を参照してください。</p>

表 46-5 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信デバイスでは、このチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケール設定に一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しないと、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信デバイスは、送信デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールに一致する場合は、電話機に文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端が同じ言語グループに属さないユーザ ロケールを設定している場合は、電話機に判読不可能な文字が表示されることがあります。</p>
[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>(FXO ポートではなく) FXS ポートに対して表示されるこの設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズすることができます。選択した [発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] には、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれます。</p> <p>ヒント コールが発生する前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションは一致せず、適用されません。[発呼側トランスフォーメーションパターン] をルーティングに使用されない null ではないパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられているデバイス プールに設定された発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、デバイスは [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した発呼側トランスフォーメーション CSS を使用します。</p> <p>この設定は、FXS ポートに対して表示され、FXO ポートには表示されません。</p>
[ホットラインデバイス (Hotline Device)]	<p>このデバイスをホットライン デバイスにするには、このチェックボックスをオンにします。ホットライン デバイスは、他のホットライン デバイスにだけ接続できます。この機能は、オフフックになると自動的に 1 つの電話番号をダイヤルするように電話機を設定する PLAR の拡張機能です。ホットラインでは、PLAR を使用するデバイスに適用できる制限事項が追加されます。</p> <p>ホットラインを実装するには、補足サービス ソフトキーのないソフトキー テンプレートを作成して、ホットライン デバイスに適用する必要があります。</p>

表 46-5 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインを選択します。この値を [<なし (None)>] のままにすると、このデバイスはデバイスのデバイス プールに設定された値から MLPP ドメインを継承します。デバイス プールに MLPP ドメインが設定されていない場合に、このデバイスは MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値からその MLPP ドメインを継承します。</p>
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>この設定を使用できないデバイスもあることに注意してください。(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 • [オフ (Off)] : デバイスは MLPP 優先コールの表示の対応も処理もしません。 • [オン (On)] : デバイスは MLPP 優先コールの表示に対応して処理します。 <p>(注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] のとき) という組み合わせでは、デバイスを設定しないでください。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定を使用できないデバイスもあることに注意してください。(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : デバイスは MLPP プリエンプション設定値をデバイス プールから継承します。 • [無効 (Disabled)] : このデバイスは、高優先のコールの完了に低優先のコールのプリエンプションが必要な場合に、プリエンプションの実行を許可しません。 • [強制 (Forceful)] : このデバイスは、高優先のコールの完了に低優先のコールのプリエンプションが必要な場合に、プリエンプションの実行を許可します。 <p>(注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] のとき) という組み合わせでは、デバイスを設定しないでください。</p>

表 46-5 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

フィールド	説明
[ポート情報 (Port Information) (POTS)]	
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Inbound] : 着信コールだけに使用。 [Outbound] : 発信コールに使用。 [Bothways] : 着信コールと発信コールに使用 (デフォルト)。
[プレフィックス DN (Prefix DN)] (FXS ポート用)	着信コールでこのトランクが受信する数字に付加されるプレフィックス番号を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、[数値桁 (Num Digits)] の設定値に従って、番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。 国際的なエスケープ文字 + を入力できます。
[数値桁 (Num Digits)] (FXS ポート用)	収集する有意な数字の桁数を、0 ~ 32 で指定します。 Cisco Unified Communications Manager は、コールされる番号の右 (最後の桁) から有意な数字をカウントします。 このフィールドは、着信コールを処理し、PRI スパンに入るコールのルーティングに使用する着信側番号の最後の桁から始まる桁数を指定します。「プレフィックス DN (Prefix DN)」を参照してください。
[期待文字 (Expected Digits)] (FXS ポート用)	トランクの着信側に必要な桁数を入力します。ほとんど使用しません。不明の場合は、デフォルト値 (ゼロ) をそのまま使用してください。
[SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)]	このフィールドはボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポート用に使用します。 [SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)] は、アナログ アクセス ポートが接続されるボイス メッセージ システム上の実際のポート番号と同じ番号に設定します。 (注) ボイス メッセージ システムが正常に動作するためには、一般にボイスメールの論理ポートが物理ポートに一致する必要があります。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]	
[位置情報 (Geo Location)]	ドロップダウン リスト ボックスから、位置情報を選択します。 未指定の位置情報を選択できます。これは、このデバイスを位置情報に関連付けないことを示します。 [システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定した位置情報を選択することもできます。

表 46-5 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

フィールド	説明
[位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>この値を [なし (None)] のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定した位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>(注) このフィールドは、FXS ゲートウェイに対してはサポートされません。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上のデジタル アクセス T1 トランクのフィールドの説明

表 46-6 に Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランク用の値を追加または更新するためのフィールドについて、詳細に説明します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.46-52) を参照してください。

表 46-6 デジタル アクセス T1 (T1-CAS) の設定

フィールド	説明
[エンドポイント名 (End-Point Name)]	<p>VG200 ゲートウェイの場合、ここは表示専用フィールドです。Cisco Unified Communications Manager で生成された VG200 デジタル インターフェイスを一意に識別する文字列が表示されます。</p> <p>次の例を参考にしてください。</p> <p>S1/DS1-0@VG200-2</p> <p>S1 はスロット 1 を表し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを表し、@VG200-2 は VG200 テンプレート名を表します。</p>
[説明 (Description)]	<p>デバイスの目的を明らかにする説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。</p>
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、このデバイスのプロパティの集合 (たとえば、Communications Manager グループ、日付/時刻グループ、地域、およびデバイスの自動登録用のコーリング サーチ スペース) を指定します。</p>
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>このパラメータは、このゲートウェイを使用する着信コールをネットワーク上にない (オフネット) と見なすか、ネットワーク上にある (オンネット) と見なすかを決定します。</p> <p>[コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定されている場合は、Cisco Unified Communications Manager clusterwide サービス パラメータの Call Classification の設定によってゲートウェイがオンネットとオフネットのどちらであるかが決まります。</p> <p>このフィールドには、コールがオンネット、オフネットそれぞれの場合の警告音を指定します。</p>
[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)]	<p>このリストは、優先順位が付けられたメディア リソース グループのグルーピングを指定します。アプリケーションは、[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)] で定義する優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (たとえば保留音サーバ) を選択します。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p> <p>このドロップダウン リスト ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースの数は、Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して設定できます。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目数を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、さらに Unified CMAAdmin Parameters を選択します。</p>

表 46-6 デジタル アクセス T1 (T1-CAS) の設定 (続き)

フィールド	説明
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[ロケーション (Location)]	このデバイスの適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを [なし (None)] に設定すると、ロケーション機能がこのデバイスの消費する帯域幅を管理しないことを示します。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。グループを [なし (None)] に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	ドロップダウンリストボックスから、このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインを選択します。この値を [<なし (None)>] のままにすると、このデバイスはデバイスのデバイス プールに設定された値から MLPP ドメインを継承します。デバイス プールに MLPP ドメインが設定されていない場合に、このデバイスは MLPP Domain Identifier エンタープライズパラメータに設定された値からその MLPP ドメインを継承します。
[DTMF 優先シグナルを処理 (Handle DTMF Precedence Signals)]	このゲートウェイで特殊な DTMF 信号を MLPP 優先レベルと解釈できるようにするには、このボックスをオンにします。
[ロード情報 (Load Information)]	ゲートウェイ用の該当するファームウェア ロード情報を入力します。 ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。
[ポート選択順序 (Port Selection Order)]	チャンネルまたはポートが発信コールに割り当てられる順序、つまり最初 (最小番号のポート) から最後 (最大番号のポート) の順か、最後から最初の順かを選択します。 有効な入力値は、[Top Down] (最初から最後) または [Bottom Up] (最後から最初) です。どちらのポート順序を使用すべきかわからない場合は、[Top Down] を選択してください。
[送信番号 (Digit Sending)]	ダイヤルアウト方式に、次の数字送信タイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [DTMF] : デュアル トーン多重周波数。通常のプッシュフォンのダイヤル方式。 [MF] : 多重周波数。 [PULSE] : パルス (ロータリー) ダイヤル方式。

表 46-6 デジタル アクセス T1 (T1-CAS) の設定 (続き)

フィールド	説明
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ゲートウェイに関連付けられたロケールを選択します。ネットワーク ロケールは、特定のロケーションのハードウェアをサポートする詳細な情報のセットを識別します。ネットワーク ロケールには、デバイスが特定の地域で使用するトーンと断続周期の定義が含まれます。</p> <p>(注) すでにインストールされ、関連のデバイスでサポートされているネットワーク ロケールのみを選択します。リストには、この設定に使用できるすべてのネットワーク ロケールが含まれますが、すべてがインストールされているとは限りません。ファームウェアでサポートしないネットワーク ロケールにデバイスが関連付けられている場合、デバイスは起動しません。</p>
[SMDI 基本ポート (SMDI Base Port)]	<p>T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。</p> <p>このパラメータをゼロでない値に設定し、このゲートウェイが不明なルート リスト タイプ、ルート グループ、またはルート リストに属する場合は、このスパンを過ぎるとハンティングは継続されません。</p>
[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]	
[位置情報 (Geo Location)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、位置情報を選択します。</p> <p>未指定の位置情報を選択できます。これは、このデバイスを位置情報に関連付けないことを示します。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定した位置情報を選択することもできます。</p>
[位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>この値を [<なし (None)>] のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定した位置情報フィルタを選択することもできます。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.46-52) を参照してください。

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明

表 46-7 に、Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクの値を追加または更新するためのフィールドについて説明します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

関連する手順については、「関連項目」(P.46-52) を参照してください。

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[エンドポイント名 (End-Point Name)]	VG200 ゲートウェイの場合、ここは表示専用フィールドです。Cisco Unified Communications Manager が生成する、VG200 エンドポイントを一意に識別する文字列が表示されます。 次の例を参考にしてください。 S1/DS1-0@VG200-2 S1 はスロット 1 を表し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを表し、@VG200-2 は VG200 ドメイン名を表します。
[説明 (Description)]	設定するエンドポイントの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックslash (¥)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	このグループのゲートウェイまたはポート用のデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット (たとえば、地域、日付/時刻グループ、Cisco Unified Communications Manager グループ、自動登録用のコーリングサーチ スペースなど) を定義します。

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、[オン ネット]、[オフ ネット]、または [システム デフォルトの使用 (Use System Default)] の中からデバイスの設定 オプションを選択します。</p> <p>デバイス レベルで [システム デフォルトの使用 (Use System Default)] を選択した場合は、サービス パラメータの値を使用してデバイスが内部 (オン ネット) か外部 (オフ ネット) かが決定されます。</p>
[ネットワーク ロケール (Network Locale)]	<p>このゲートウェイに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。</p> <p>ネットワーク ロケールは、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するとき使用する トーンと断続周期を提供します。</p>
[メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)]	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。</p> <p>MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモート ロケーションを指します。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。グループを [なし (None)] に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。</p>
[ロード情報 (Load Information)]	<p>ゲートウェイ用のカスタム ソフトウェアに該当するロード情報を入力します。ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。</p> <p>デフォルト ロードを使用する場合は、このフィールドをブランクのままにします。</p>

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信デバイスでは、このチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケール設定に一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しないと、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信デバイスは、送信デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールに一致する場合は、電話機に文字が表示されます。</p> <p>トランクの両端が同じ言語グループに属さないユーザ ロケールを設定している場合は、電話機に判読不可能な文字が表示されることがあります。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] ("0000FF" など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[インターフェイス情報 (Interface Information)]	
[PRI プロトコルタイプ (PRI Protocol Type)]	<p>スパンの通信プロトコルを選択します。</p> <p>E1 PRI スパンには、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [PRI AUSTRALIAN] : Australian ISDN • [PRI EURO] : European ISDN • [PRI ISO QSIG E1] : European PBX 間シグナリングプロトコル <p>T1 PRI スパンには、通信事業者または交換機に応じて、複数のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [PRI 4ESS] : AT&T 長距離通信事業者、Lucent Definity 交換機 • [PRI 5E8 Custom] : Cisco Unified IP Phone、Nortel Meridian 交換機、Lucent Definity 交換機 • [PRI 5E8 Teleos] : Madge Teleos ボックス • [PRI 5E8 Intecom] : Intecom PBX • [PRI5E9] : AT&T 系の地域通信事業者または交換機 • [PRI NI2] : Sprint 地域通信事業者または交換機 • [PRI DMS-100] : Sprint 地域通信事業者または交換機 • [PRI DMS-250] : MCI および Sprint 地域通信事業者または交換機 • [PRI ETSI SC] : T1 ベースの欧州地域通信事業者、および日本の地域電話局 • [PRI ISO QSIG T1] : PBX 間シグナリングプロトコル
[プロトコル側 (Protocol Side)]	<p>適切なプロトコル側を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続するか、User デバイスに接続するかを指定します。</p> <p>PRI 接続の両端が、逆の設定値を使用していることを確認してください。たとえば、PBX に接続しているときに、PBX がプロトコル側として User を使用する場合、このデバイスには Network を選択します。一般に、Central Office (CO) 接続には User を使用します。</p>

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[チャンネル選択順序 (Channel Selection Order)]	<p>チャンネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり最初 (最小番号のポート) から最後 (最大番号のポート) の順か、最後から最初の順かを選択します。</p> <p>有効な入力値は、[Top Down] (最後から最初) または [Bottom Up] (最初から最後) です。どちらのポート順序を使用すべきかわからない場合は、[Top Down] を選択してください (デフォルトは [Bottom Up])。</p>
[チャンネル IE タイプ (Channel IE Type)]	<p>次の値のいずれかを選択して、チャンネル選択がチャンネルマップとして提示されるか、スロットマップとして提示されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Number] : B チャンネルの使用は、常にチャンネル マップ形式。 • [Slotmap] : B チャンネルの使用は、常にスロットマップ形式。 • [Use Number When 1B] : チャンネルの使用は、1 つの B チャンネルにはチャンネルマップですが、複数の B チャンネルが存在する場合は、スロットマップ (デフォルト)。
[PCM タイプ (PCM Type)]	<p>デジタル符号化フォーマットを指定します。次の形式のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [a-law] : ヨーロッパおよび下記以外の国で使用します。 • [mu-law] : 北米、香港、台湾、および日本で使用します。
[最初のリスタートの遅延 (Delay for first restart、1/8 秒単位)]	<p>(オプション) スパンが開始するレートを、1/8 秒単位で入力します。遅延が起きるのは、システム上で多数の PRI スパンが使用可能になっているときに、[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)] チェックボックスがオフになっている場合です (デフォルト値は 32)。</p> <p>たとえば、最初の 5 つのカードを 0 に設定し、次の 5 つのカードを 16 に設定します (カードが使用開始になるまで 2 秒待ちます)。</p>
[リスタート間遅延 (Delay between restarts、1/8 秒単位)]	<p>再起動間の間隔を、1/8 秒単位で入力します。遅延が起きるのは、[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)] チェックボックスがオフになっている場合に、PRI RESTART が送信されるときです (デフォルト値は 4)。</p>

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)]	再起動メッセージによって、PRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART が送信されない場合、Cisco Unified Communications Manager は、ポートが使用中であると想定します。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。 D チャネルは、別の PRI トランクの D チャネルと正常に接続されると、このチェックボックスがオフの場合は、Restart を送信します。
[ステータスポーリングを有効化 (Enable status poll)]	Cisco Unified Communications Manager 拡張サービス パラメータである Change B-Channel Maintenance Status を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。このサービス パラメータによって B チャネルがアクティブのときに個別の B チャネルをサービスから除外できます。 Change B-Channel Maintenance Status サービス パラメータを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。 デフォルトではこのチェックボックスはオフになっています。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[コールルーティング情報 - インバウンドコール (Call Routing Information - Inbound Calls)]	
[有意な数字 (Significant Digits)]	このフィールドは、PRI スパンが着信コールで保持しなければならない末尾の桁数を表します。有意な数字が有効になっているトランクは、着信コールで提供されるアドレスの最後の桁以外をすべて切り捨てます。 有意な数字を収集するかどうかに応じて、このチェックボックスをオンまたはオフにします。 <ul style="list-style-type: none"> このチェックボックスをオンにしない場合、Cisco Unified Communications Manager は着信番号を切り捨てません。 このチェックボックスをオンにする場合、収集する有意な数字の桁数も選択する必要があります。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	このグループの電話機またはポートのコーリングサーチスペースを選択します。 コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[プレフィックスDN(Prefix DN)]	(オプション) 着信コールでこのトランクが受信する数字に付加されるプレフィックス番号を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、[数値桁 (Num Digits)] の設定値に従って、番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。
[コールルーティング情報 - アウトバウンドコール(Call Routing Information - Outbound Calls)]	
[発呼者回線ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	Cisco Unified Communications Manager が発信者電話番号を送信するか、ブロックするかを選択します。 発信者回線番号の表示を変更しない場合は [デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が「Calling Line ID Allowed」を送信するようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が「Calling Line ID Restricted」を送信するようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイが発信する任意のコールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Originator] : コールの発信側デバイスの電話番号を送信します。この番号がデフォルト値です。 • [First Redirect Number] : リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number] : コールを最後にリダイレクトしたデバイスの電話番号を送信します。
[発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が、発信側の電話番号 (DN) タイプを設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定します (デフォルト)。 • [International] : ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときに使用します。 • [National] : ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときに使用します。 • [Unknown] : (オプション) ダイヤル計画が不明です。

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)]	<p>着信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。Cisco Unified Communications Manager が、着信側の電話番号 (DN) タイプを設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定します (デフォルト)。 • [International] : ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときに使用します。 • [National] : ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときに使用します。 • [Unknown] : (オプション) ダイヤル計画が不明です。

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[着信番号計画 (Called Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が、着信側の DN 番号計画を設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号の番号計画を設定します (デフォルト)。 • [ISDN] : ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときに使用します。 • [National Standard] : ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときに使用します。 • [Private] : プライベートネットワーク内でダイヤルするときに使用します。 • [Unknown] : (オプション) ダイヤル計画が不明です。

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が、発信側の DN 番号計画を設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号の番号計画を設定します (デフォルト)。 • [ISDN] : ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときを使用します。 • [National Standard] : ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときを使用します。 • [Private] : プライベートネットワーク内でダイヤルするときを使用します。 • [Unknown] : (オプション) ダイヤル計画が不明です。
[削除桁数 (Number of digits to strip)]	<p>発信コールに関して除去する桁数を、0 ~ 32 で選択します (デフォルト値は 0)。</p> <p>たとえば、8889725551234 にダイヤルし、除去する桁数が 3 であるとします。この例では Cisco Unified Communications Manager は発信番号から 888 を除去します。</p>

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[発信者 ID DN(Caller ID DN)]	<p>発信者 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 55XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。 5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元である正確な内線番号ではなく、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。
[SMDI 基本ポート (SMDI Base Port)]	T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。
[PRI プロトコルタイプ固有情報 (PRI Protocol Type Specific Information)]	
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	(オプション) 発信側と着信側の名前通知サービスに対して、SETUP メッセージおよび CONNECT メッセージ内の表示情報要素 (IE) の通知を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>(オプション) コールの自動転送時に最初にリダイレクトした端末番号とコールのリダイレクトの理由を知らせるために、SETUP メッセージに番号 IE のリダイレクトを含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。</p> <p>この設定値は、デジタル アクセス ゲートウェイ用のすべてのプロトコル上で、SETUP メッセージだけに適用されます。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>(オプション) コールの自動転送時に最初にリダイレクトした端末番号とコールのリダイレクトの理由を知らせるために、SETUP メッセージに番号 IE のリダイレクトを含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。</p> <p>この設定値は、デジタル アクセス ゲートウェイ用のすべてのプロトコル上で、SETUP メッセージだけに適用されます。</p>

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[IE 表示での付加先行文字を送る (Send Extra Leading Character in Display IE)]	<p>DisplayIE フィールドに特殊先頭文字バイト (非 ASCII 文字、表示不能) を含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>DisplayIE フィールドからこの文字バイトを除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは DMS-100 プロトコルおよび DMS-250 プロトコルだけに適用します。</p> <p>デフォルトでは、このフィールドは無効 (オフ) になっています。</p>
[非 ISDN プログレスインジケータ IE を有効に設定 (Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable)]	<p>(オプション) 一部の PBX 上でリングバックを強制するには、このフィールドに値を指定する必要があります。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。ユーザが発信コールでリングバック音を受信しない場合だけ、このチェックボックスをオンにしてください。</p> <p>この設定値が使用可能である場合、Cisco Unified Communications Manager は、Q.931 セットアップ メッセージを、[Progress Indicator] フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル (つまり、非 H.323) ゲートウェイに送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco Unified Communications Manager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスが帯域内呼び出し音を再生しなければならないことを、宛先デバイスに知らせます。</p> <p>通常、この問題は、デジタル ゲートウェイを介して PBX に接続する Cisco Unified Communications Manager に関連しています。</p>
[MCDN チャネル番号拡張ビットを 0 に設定 (MCDN Channel Number Extension Bit Set to Zero)]	<p>このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。インターフェイス識別子が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。</p>
[ファシリティ IE でのコール名を送る (Send Calling Name In Facility IE)]	<p>このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。PBX プロバイダーから得られる値を入力します。有効な値は 0 ~ 255 です。</p>

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[インターフェイス識別子あり (Interface Identifier Present)]	このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。インターフェイス識別子が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
[インターフェイス識別子の値 (Interface Identifier Value)]	このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。PBX プロバイダーから得られる値を入力します。有効な値は 0 ~ 255 です。
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)]	Cisco Unified Communications Manager が着信側電話番号の表示を許可するか、ブロックするかを選択します。 着信回線番号の表示を変更しない場合は [デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が「Connected Line ID Allowed」を送信するようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が「Connected Line ID Restricted」を送信するようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。
[UUIE の設定 (UUIE Configuration)]	
[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)]	PRI 4ESS UUIE フィールドを使用した MLPP 情報の受け渡しを可能にする場合に、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチの操作に使用されます。 このチェックボックスは、このゲートウェイで PRI プロトコルタイプの値に PRI 4ESS が指定されている場合にだけ使用可能になります。 デフォルト値では、このチェックボックスはオフになっています。
[セキュリティアクセスレベル (Security Access Level)]	セキュリティアクセスレベルの値を入力します。有効な値は 00 ~ 99 です。このフィールドは、[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] チェックボックスがオンの場合にだけ使用可能になります (デフォルト値は 2)。

表 46-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]	
[位置情報 (Geo Location)]	ド롭ダウン リスト ボックスから、位置情報を選択します。 未指定の位置情報を選択できます。これは、このデバイスを位置情報に関連付けないことを示します。 [システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定した位置情報を選択することもできます。
[位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]	ド롭ダウン リスト ボックスから、位置情報フィルタを選択します。 この値を [なし (None)] のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。 [システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定した位置情報フィルタを選択することもできます。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある「?」情報アイコンをクリックして、ポップアップ ウィンドウにヘルプを表示してください。詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイの資料を参照してください。	

ポートの設定

すべてのポート タイプ設定フィールドの詳細な説明を示す表は、次の項を参照してください。

- 「POTS ポートの設定」 (P.46-48)
- 「デジタル アクセス T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明」 (P.46-50)

ゲートウェイ設定の詳細については、「ゲートウェイの設定」 (P.46-15) を参照してください。

追加情報

「関連項目」 (P.46-52) を参照してください。

POTS ポートの設定

表 46-8 に、POTS ポートの設定に関する説明があります。関連する手順については、「[関連項目](#) (P.46-52) を参照してください。

表 46-8 POTS ポートの設定

フィールド	説明
[ポートタイプ (Port Type)]	[ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウンリストボックスで、[POTS] を選択します。
[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] [終了ポート番号 (Ending Port Number)]	追加および設定するのが、使用可能なすべてのポートか、単一のポートか、特定の範囲のポートかを、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドの設定値によって選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 特定の範囲のポートを指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] に適切な値を選択します。 単一のポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドで同じ値を選択します。 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] の両方のフィールドに [すべてのポート (All Ports)] を選択します。
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Inbound] : 着信コールだけに使用。 [Outbound] : 発信コールに使用。 [Bothways] : 着信コールと発信コールに使用 (デフォルト)。
[Audio Signal Adjustment into IP Network]	このフィールドには、ポート アプリケーション タイプに対して受信した音声信号に適用するゲインまたは損失を指定します。 (注) ゲインの設定値が不適切な場合は、音声エコーが発生することがあります。この設定値を調整する場合は注意してください。
[Audio Signal Adjustment from IP Network]	このフィールドには、ポート アプリケーション タイプに対して送信した音声信号に適用するゲインまたは損失を指定します。 (注) ゲインの設定値が不適切な場合は、音声エコーが発生することがあります。この設定値を調整する場合は注意してください。
[プレフィックス DN (Prefix DN)]	着信コールでこのトランクが受信する数字に付加されるプレフィックス番号を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、[数値桁 (Num Digits)] の設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。

表 46-8 POTS ポートの設定 (続き)

フィールド	説明
[数値桁 (Num Digits)]	<p>収集する有意な数字の桁数を、0 ~ 32 で指定します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、コールされる番号の右 (最後の桁) から有意な数字をカウントします。</p> <p>このフィールドは、着信コールを処理し、PRI スパンに入るコールのルーティングに使用する着信側番号の最後の桁から始まる桁数を指定します。「プレフィックス DN(Prefix DN)」を参照してください。</p>
[期待文字 (Expected Digits)]	<p>トランクの着信側に必要な桁数を入力します。ほとんど「使用しません」。不明の場合は、デフォルト値 (ゼロ) をそのまま使用してください。</p>
[Call Restart Timer (1000 ~ 5000 ms)]	<p>Call Restart Timer (1000 ~ 5000 ms)。ms はミリ秒単位の時間を表します。</p>
[Offhook Validation Timer (100 ~ 1000 ms)]	<p>Offhook Validation Timer (100 ~ 1000 ms)。ms はミリ秒単位の時間を表します。</p>
[Onhook Validation Timer (100 ~ 1000 ms)]	<p>Onhook Validation Timer (100 ~ 1000 ms)。ms はミリ秒単位の時間を表します。</p>
[Hookflash Timer (100 ~ 1500 ms)]	<p>Hookflash Timer (100 ~ 1500 ms)。ms はミリ秒単位の時間を表します。</p>
[SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)]	<p>このフィールドはボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポート用に使用します。</p> <p>[SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)] は、アナログ アクセス ポートが接続されるボイス メッセージ システム上の実際のポート番号と同じ番号に設定します。</p> <p>(注) ボイス メッセージ システムが正常に動作するためには、一般にボイスメールの論理ポートが物理ポートに一致する必要があります。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
<p>ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド</p>	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.46-52) を参照してください。

デジタル アクセス T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランク用 E&M ポートの値を追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力オプションです。

表 46-9 に、E & M ポートの設定に関する説明があります。関連する手順については、「[関連項目 \(P.46-52\)](#)」を参照してください。

表 46-9 E & M ポートの設定

フィールド	説明
[ポートタイプ (Port Type)]	[ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[EANDM] を選択します。
[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] [終了ポート番号 (Ending Port Number)]	追加および設定するのが、使用可能なすべてのポートか、単一のポートか、特定の範囲のポートかを、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドの設定値によって選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 特定の範囲のポートを指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] に適切な値を選択します。 単一のポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドで同じ値を選択します。 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] の両方のフィールドに [すべてのポート (All Ports)] を選択します。
[ポートの詳細 (Port Details)]	
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Inbound] : 着信コールだけに使用。 [Outbound] : 発信コールに使用。 [Bothways] : 着信コールと発信コールに使用。

表 46-9 E & M ポートの設定 (続き)

フィールド	説明
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイが発信する任意のコールは、電話番号情報を送信できません。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Originator] : コールの発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number] : リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number] : コールを最後にリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number (External)] : 最初にリダイレクトする外部電話マスク適用済みデバイスの電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number (External)] : 最後にリダイレクトする外部電話マスク適用済みデバイスの電話番号を送信します。
[発信者 ID タイプ (Caller ID Type)]	<p>発信者 ID のタイプとして次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ANI] : このタイプは、発信者 ID のタイプとして Asynchronous Network Interface (ANI) を使用する場合に選択します。 • [DNIS] : このタイプは、発信者 ID のタイプとして Dialed Number Identification Service (DNIS) を使用する場合に選択します。
[発信者 ID DN (Caller ID DN)]	<p>発信者回線番号に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 55XXXX = 可変発信者回線番号。ここで、X は内線番号に相当します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。 • 5555000 = 固定発信者回線番号。コールの発信元である正確な内線番号ではなく、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。
[プレフィックス DN (Prefix DN)]	<p>着信コールで着信側番号に付加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、[数値桁 (Num Digits)] の設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
[数値桁 (Num Digits)]	<p>収集する有意な数字の桁数を、0 ~ 32 で選択します。Cisco Unified Communications Manager は、コールされる番号の右 (最後の桁) から有意な数字をカウントします。</p> <p>このフィールドは、[Sig Digits] チェックボックスをオンにした場合に使用します。このフィールドは、着信コールを処理し、PRI スパンに入るコールのルーティングに使用する着信側番号の最後の桁から始まる桁数を指定します。[プレフィックス DN (Prefix DN)] と [Sig Digits] を参照してください。</p>
[期待文字 (Expected Digits)]	<p>トランクの着信側に必要な桁数を入力します。ほとんど使用しません。不明の場合は、デフォルト値 (ゼロ) をそのまま使用してください。</p>

表 46-9 E & M ポートの設定 (続き)

フィールド	説明
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

関連項目

- 「シスコのゲートウェイの追加」 (P.46-1)
- 「ゲートウェイ テンプレートの検索」 (P.46-3)
- 「ゲートウェイ テンプレートの追加または編集」 (P.46-5)
- 「ゲートウェイの設定」 (P.46-15)
- 「ポートの設定」 (P.46-47)
- 「シスコのゲートウェイの削除」 (P.49-1)
- 「シスコのゲートウェイのレポートの生成」 (P.50-1)